

## 小委員会の調査報告書

教科名	英語	委員長名 <u>倉 照 彦</u>
調査研究の経過	<p>1 審議の概要</p> <p>(1) 第1回調査委員会を6月6日(木)に、オンライン会議(Zoom)にて開催し、英語小委員会の委員長並びに副委員長を選出するとともに、調査研究の進め方等について確認した。</p> <p>(2) 6月6日(木)から7月9日(火)まで、「教科書見本本」「教科書編修趣意書」「採択参考資料」をもとに、調査研究を進めた。</p> <p>(3) 第2回調査委員会を、7月11日(木)に稚内総合文化センターで開催し、報告書の作成を行った。</p> <p style="padding-left: 20px;">なお、調査研究した教科書見本本の発行者(略称)は、東書、開隆堂、三省堂、教出、光村、啓林館の6者である。</p> <p>2 調査研究の観点</p> <p style="padding-left: 20px;">調査研究の観点は次のとおりである。</p> <p>(1) 「取扱い内容、内容の構成・排列」について</p> <p>(2) 「使用上の配慮」について</p> <p>(3) 「デジタル教科書」について</p> <p>(4) 「その他」について</p>	
調査研究に当たったことの配慮事項	<p>1 「取扱い内容、内容の構成・排列」について</p> <p>(1) 学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標、内容等に基づいて取り上げられているか。</p> <p>(2) 知識及び技能の活用、思考力、判断力、表現力等及び学びに向かう力、人間性等の発揮による資質・能力の育成に対応できるよう、主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習内容などがどのように取り扱われているか。</p> <p>(3) 内容の構成・配列が、地域の実態や学年の発達の段階等に応じて、系統的、発展的に組織されているか。</p> <p>2 「使用上の配慮等」について</p> <p>(1) 児童の学習意欲を高めるよう工夫されているか。</p> <p>(2) 自ら課題解決に取り組み、主体的に学習に取り組めるよう工夫されているか。</p> <p>(3) 目次、索引、注、諸表など、使用上の便宜は図られているか。</p> <p>3 「デジタル教科書」について</p> <p style="padding-left: 20px;">今回から採択の考慮事項に加えられた。生徒用の使い勝手や機能、細かな配慮について。</p> <p>4 「その他」について</p> <p style="padding-left: 20px;">上記1、2、3に含まれないもので、全体を通じて特色を記載した。</p>	
少数意見その他	<p>①現在の教育問題に配慮し、編集の主旨が変わってきたこと。</p> <p style="padding-left: 20px;">具体的には、教科書の真裏にある「保護者のみなさまへ」が、それまで「国際社会に対応する人材育成」だったのが、「子どもの学びの視点に立って」という形に変化したこと。</p> <p>②デジタル教科書の活用場面が増え、教科書に情報をたくさん盛り込まず、デジタルに盛り込むことで、教科書をすっきりさせ、個別最適な学びに配慮するものになってきたこと。</p> <p>③デジタル教科書やCBTテストの普及により、テストや評価が、今後どのように変化するのかが課題。</p>	

様式 2

教科名		英語				
	出版社名	教科書名	番号	出版社名	教科書名	番号
		三省堂	New CROWN	1 5	光村図書	Here we go!
取扱内容、内容の構成・排列	<p>○全体としては、育成する4つの力「言葉を使う力」、考える力、人や文化などに関わる力、学びに向かう力」の育成を目指し、身近なことを伝え合い目的や場面、状況に応じて書く・話す工夫がされている。</p> <p>○題材については、英語タイトルが多い特徴があるが、1年次には出会いと発見、2年次には可能性を広げる、3年次には思いを言葉でつたえろというテーマで、物語や自然科学、環境、防災、日本の伝統文化や他国の文化などが取り上げられている。</p> <p>○言語活動については、1年冒頭に小学校の活動を振り返るstarterがあり、各Lessonの冒頭のsmall talk、Lesson毎の小活動 Take Actionと、数Lesson後にプレゼン活動のProjectが用意され、ペアやグループなどの形態を重視し、生徒同士が協力して取り組めるよう配慮されている。</p> <p>○言語材料については、1学年のMy Dictionaryや全学年の巻末に配置した単語集などの資料がある。3学年を通じてスパイラルに言語材料を配置しており、複式学年の指導にも配慮がある。</p> <p>○補足的な内容については、1年冒頭に小学校で学んだ語句や表現を収録したStarterが用意され、数Lesson毎にLanguage Focusという文法復習、学習方法のSelf-study資料も用意されている。</p> <p>○内容の構成については、各Lessonの各パートがシーン1と2で構成され、「聞く・話す・読む・書く」がバランス良く配置され、最後にGoal Activityがある。Reading Lessonが1学年に2つ、2・3学年に3つ配置されている</p> <p>○内容の配列については、第1学年でbe動詞と一般動詞、疑問文と否定文、疑問詞、人称代名詞、can、命令形、be動詞否定文、go/enjoy+ing、3人称単数現在形、現在進行形、be動詞過去形、過去進行形、未来形の排列。2学年で接続詞、不定詞、There is/are、動名詞、SV00、show/want/call/人もの、比較級・最上級・原級、現在完了。3学年で、現在完了進行形、help+人+原形、It is 不定詞、受動態、後置修飾、関係代名詞、接触節、仮定法、間接疑問文で排列されている。1年生で未来形、2年生で現在完了が入っている。</p>			<p>○全体としては、「英語を使ってできるようになること」にもとづいて、5つの領域の言語活動が系統的に設計されている。各学年、学期、単元で生徒が身につける資質・能力を明確にし、目標までの見える化を図られている。</p> <p>○題材については、1年次には世界の中学生の出演、2・3年次には等身大の出演者による学校生活や文化的行事、仕事、自然災害など、中学生が関わり成長にする場面の題材が多く取り入れられている。</p> <p>○言語活動については、巻末に即興で話す帯教材Let's Talkが各学年の学習テーマに合わせて用意され、Unitを3つ終えた後の「You can do it」、日常会話の「Daily life」があり、話す活動が豊富に用意されている。</p> <p>○言語材料については、国際的な指標(CEFR)を参考に、使用すべき語彙を分析し、各学年の教科書で学習する語彙614語を設定。特に重要な語は進出ご覧に太字で示し、発信語彙の目安にしている。</p> <p>○補足的な内容については、数Unit後に「Active Grammar」で学習した文法を振り返り、言語活動にも使える分野別の単語集「Active words」が用意されている。</p> <p>○内容の構成は、各Unitが「扉・Part・Goal」で構成され、単元目標(CAN-DO)のGoalに進められるようにしている。読み物教材もあり、各学年最後にRetellingが入っている。</p> <p>○内容の配列については、1学年でbe動詞、一般動詞、can、疑問詞、人称代名詞、命令形、3人称単数現在形、過去形、現在進行形、2学年で動名詞、不定詞、未来形、接続詞、There is/are、SV00、助動詞、比較・最上級・原級、want/call/make人+不定詞(形容詞)、受け身、3学年では、現在完了(+進行形)、疑問詞+不定詞、関係代名詞、後置修飾、間接疑問文、仮定法過去で排列されている。</p>		

<p>使用上の配慮等</p>	<p>○数Lesson毎に自己学習のSelf-study資料も用意され、巻末にも教室英語、音読原稿、基本文のまとめ、ペアトークに使える分野別単語集、ロールプレイシートも用意されている。</p> <p>○言語活動の内容では、職業、および勤労、環境問題、社会貢献、伝統と文化の創造、平和問題など、現代における社会情勢が多く取り入れられている。</p> <p>○音声やアニメーション、モデル動画や資料映像、発音確認や英和辞典など、生徒の学びを深めるコンテンツがあり、教科書のQRコードでアクセスできるようになっている。</p> <p>○フォントは、1年生は、生徒が触れる本文などはUDフォントが使用され、ポスター教材や読み物教材からイタリック体に代わり、2年生からはイタリック体が使われている。</p>	<p>○巻頭にICT活用方法、巻末に、ペア活動で使える単語集「Active words」、4技能5領域の学び方や辞書の使い方などの学習方法「英語の学び方ガイド」や帯教材「Let's talk」、文法学習「英語の仕組み」、Can-Doリストや発信整理ノート「思考の地図」、発音記号など、主体的に学習に取り組むための工夫が多くある。</p> <p>○教科書のQRコードで、音声の他、言語活動のモデル画像やスピーキングのテスト問題など、生徒の興味・関心を高めたり、学習を深めたりする資料にアクセスできる工夫がある。</p> <p>○フォントは、1学年のUnit3まで独自の手書きフォント、Unit4からゴシック体が採用されている。2年生のUnit2からイタリック体が使われている。</p>
<p>その他</p>	<p>○デジタル教科書 教科書にある絵や文章を拡大表示できる特徴がある。読み上げや拡大できる箇所にはアイコンがあり、拡大・フォントの変更、速さ、背景の変更ができる。読み上げ速度も無段階にできる。背景色の変更や書き込み、スタンプなども充実し多機能である。</p>	<p>○デジタル教科書 枠や文字、スタンプなど充実しており、音声読み上げ機能も文章のほぼ全てに対応し、遅く5段階、早く3段階に変えて読み上げることができる。表示もふりがななどの読みやすさ・反転表示など見やすさにも対応している。分かりやすく感覚的に操作でき、見やすい画面である。</p>

様式 2

教科名		英語				
取扱内容、内容の構成・排列	出版社名	教科書名	番号	出版社名	教科書名	番号
		啓林館	BLUE SKY 1・2・3	61	教育出版	ONE WORLD
	<p>○全体としては、生徒の興味・関心を引きつける内容や現代の諸課題を考えさせる題材を扱い、4技能5領域をバランス良く学ぶことができるような内容が排列されている。</p> <p>○題材については、日本の伝統文化、比較文化、異文化理解、環境、防災・安全、平和、キャリア、共生、科学技術・福祉、人権・教育のジャンルが各学年バランス良く配置されており、SDGsも意識した学びが展開できるようになっている。</p> <p>○言語活動は、「即興的にやり取りする力」を育成するために、Unitの各PartにEnjoy Chattingというコーナーが設けられており、ペアやグループでのやり取り等に活用できるようになっている。また各単元末ではメモをもとに即興で話す力を育成し、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度や書く力、聞く力も養える活動ができるように題材が設定されており、学んだ事を生かして表現力の育成を図ることができるように配慮されている。</p> <p>○言語材料については、小学校で学習した語彙と中学校での新出語彙を分けて提示している。またそれぞれの語彙の中の重要語は太字で示されている。文法事項は、こういった場面で新出文法が使われるのか説明と同時に丁寧に示されている。</p> <p>○補充的な内容については、各単元末に既習内容を「読み」「書き」「聞く」の活動を通してバランス良く確認できるコーナーが設けられており、学習内容を深めることにも配慮されている。</p> <p>○内容の構成については、各Unitが3つのPartおよびUnitのテーマに沿ったまとまりのある英文を読み聞くRead/Listen &amp; Think、学んだ表現を使って言語活動に取り組むThink &amp; Speak/Writeの5項目で構成されている。各Unitの冒頭には必ず目標が設定されている。</p> <p>○内容の配列については、第1学年では小学校の既習内容確認、be動詞・一般動詞、疑問詞、3単現、現在進行形、動名詞、過去形、when節、過去進行形、SV00文型。第2学年では未来表現、不定詞、接続詞（if, because）SVOC文型、比較表現、受動態、助動詞。第3学年では現在完了（進行形）、後置修飾、関係代名詞、仮定法過去で排列されている。</p>			<p>○全体としては、各Lessonなどで基礎的・基本的な知識・技能の習得と生徒の興味・関心を引きつける内容や題材から、4技能5領域をバランス良く学ぶことができるような構成となっている。</p> <p>○題材については、「ピクトグラム」「福祉」「地球環境」「日本と外国の文化」「生涯スポーツ」「キャリア教育」などとSDGsを身近な話題を結びつけ、多様な社会・文化への理解、進路や将来のことへの考えを広げることができるように展開されている。</p> <p>○言語活動については、Activity PlusやLessonなどで学習した表現を活用し、協同的な学習を行うことができる。さらにTips for Speakingを効果的に活用することで、学習者の習熟度別に応じて学びを深めることができるように配慮されている。</p> <p>○言語材料については、Key Sentencesに新出表現として、「文の構造」「場面・状況」を示し、Tool Kitを活用して、さらなる自己表現に繋げることができるように工夫されている。また、各Lessonで学習した内容を振り返るための項目も示されている。</p> <p>○補充的な内容については、「Project」で学習者の興味をもとに発展的な学習ができるようになっている。</p> <p>○内容の構成については、各LessonがPart1~3, Task, Grammar[ Unit Review]で構成され、Activity Plus, Tips for [speaking/Writing/Listening/Reading]で4技能5領域の言語活動がバランスよく配置され、Projectで学習者が興味・関心に応じて主体的に学習に取り組むことができるような構成となっている。</p> <p>○内容の配列については、第1学年では小学校の既習学習材料、be動詞・一般動詞、助動詞can、疑問詞、現在進行形、助動詞should/have to、未来表現、感嘆文、SVC、There is/are ~で排列。第2学年では、SV00/that節、接続詞、過去進行形、不定詞（名詞適用法、副詞的用法）、動名詞（目的語）不定詞（形容詞的用法）、動名詞（主語）SV0102[02=that節]、不定詞、比較級、受動態、間接疑問文、SV0+to do、SVOC、SV0+原形不定詞で排列。第3学年では現在完了形、後置修飾、関係代名詞、仮定法で排列されている。</p>		

<p>使用上の配慮等</p>	<p>○人権、福祉、国際理解、異文化理解、ジェンダーへの配慮をするための題材が全学年まんべんなく配置されている。</p> <p>○SDGsの17の目標に関する題材を3学年通して豊富に取り上げ、関心を深めるとともに自分ができることを考える助けとなっている。</p> <p>○感染症対策や個別最適な学びの推進補助のために、QRコードから音声や動画コンテンツを繰り返し視聴できるようにになっている。</p> <p>○教師支援や働き方改革の観点から、各Unitの活動などの構成を一定にしたり、各Partは見開き2時間設定など配当時間に余裕を持たせている。</p> <p>○1年の欧文フォントは多くの人々が認識しやすいUDフォントを使用している。</p> <p>○各学年の学習到達目標をCAN-DOリストで明示し、目標に向かって学習の見通しを立てられるよう工夫している。</p>	<p>○円滑な小中接続に繋げることができるように、1年Lesson1,2は本文をマンガのレイアウトとし、「読むこと」への負担感を減らし、無理なく中学校の学習に進めることができるよう配慮されている。</p> <p>○取り上げる題材や本文内の表現、登場人物やイラストなどについて、「性別」「身体的特徴」「文化の多様性」な様々な観点で配慮されている。</p> <p>○各Lessonには本文音声と語彙のワークシートにQRコードでアクセスすることができるため、自宅学習として活用することができる。また「やりとりの見本」「活動用ワークシート」など生徒の自学自習や教材研究等における教員支援などの工夫が見られる。</p> <p>○SDGsの観点から、持続可能な社会を目指して、生徒にとっての身近な話題を中心に多様な社会・文化への理解、進路や将来のことを考えられるように工夫されている。</p> <p>○日本語の書体はUDフォントを使用し、英語の書体は、1年生では、序盤の小中接続期では手書き文字に近い書体を、後半からはブロック体を使用している。2・3年生では、ローマン体を使用している。</p> <p>○巻末に学習到達目標をCAN-DOリストで明示し、目標に向かって学習の見通し立てたり、振り返りができるように工夫されている。</p>
<p>その他</p>	<p>○デジタル教科書について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機能面では、ズーム・書き込み、読み上げ、付箋機能など一般的なツールが用意されている。特徴点としては、読み上げ機能が最大4倍速まで対応していること、暗記ペンモードと呼ばれるデジタル教科自体に墨塗ができる機能やタブレット上に自由に書き込めるノートも用意されており、デジタル上で学習が完結できる配慮がなされている。</li> <li>・操作面においては、メニューアイコンが何の操作をするのかイメージしやすいものに工夫されており、カーソルをあてることで何の機能かも示されるようになっており、操作がしやすい配慮がなされている。</li> <li>・機能面でのツールが豊富であり、生徒がタブレットだけで学習を進めることができるような仕組みとなっている。</li> </ul>	<p>○デジタル教科書については、個々の学習の段階に応じて、本文・語句などの音声の再生速度を調整でき、音声に合わせてカラオケ表示を行うことで、音声を聞きながら文字を目で追うことができる。また、録音機能にて自分の声を録音して、ネイティブ音声との比較を繰り返すことで自己調整しながら上達ができるようになっている。</p>

様式 2

教科名		英語				
	出版社名	教科書名	番号	出版社名	教科書名	番号
		東京書籍	NEW HORIZON 1,2,3	2	開隆堂	Sunshine 1, 2, 3
取扱内容、内容の構成・排列	<p>○全体としては、Unitの最初に示されたゴールの達成に向けて生徒が基礎的・基本的な知識・技能を習得し、それらを活用して自分の言葉で表現できるようスモールステップで5領域の力をバランスよく身に付けられる構成となっている。</p> <p>○題材については、身近な人やもの、趣味やスポーツに加えて、多様性や人権への配慮、防災、環境、伝統と文化、SDGs など、今日的な課題も多く取り扱っている。</p> <p>○言語活動については、重要な文法を練習した後にそれらを使って自分の考えを表現できるような活動がどのUnitにも盛り込まれており、スモールステップで各技能を養成できるようになっている。また、各学期の最後に配置されている Stage Activityでは学習した事項を総合的に活用できる活動が組み込まれている。</p> <p>○言語材料については、重要事項が太字で示されており、必要に応じて既習事項との関連性も示されている。</p> <p>○補足的な内容については、Unit0において前学年で学んだ内容を簡単に復習することのできる内容が配置されているほか、とくに重要な文法を扱っている Unitの後にはGrammar for Communicationという文法を分かりやすくまとめたページもあり、要点を一目で確認できるようになっている。</p> <p>○内容の構成については、Unitごとに共通したテーマの英文を取り扱っている。「扉」のページでUnitのテーマを把握し、Part1と2の短めの英文で文法を学び、Read and Think 1と2で新たな文法を使って長めの英文を読解し、最後のUnit Activityで学んだ文法を活用できるような構成となっている。また、数Unitで1つのStageになるよう編成されており、3学期制の学校ならばちょうど学期ごとにStageが完了できるよう考えられている。</p> <p>○内容の配列については、第1学年でbe動詞と一般動詞、疑問詞、三単現、現在進行形、過去形、過去進行形、There is/are～、第2学年で未来形、SV00、SVOC、接続詞、不定詞、助動詞、動名詞、比較級・最上級、受け身、第3学年で現在完了（現在完了進行形）、間接疑問文、後置修飾、関係代名詞、仮定法で排列されている。</p>			<p>○全体としては、全学年を通して1單元の中に「聞く」「読む」「話す」「書く」活動が配置されており、5領域について総合的な指導ができるよう工夫・配慮されている。</p> <p>○題材については、SDGs、自国の文化、多様性や人権、防災教育、環境・自然エネルギー、地域との連携、スポーツ教育、キャリア教育など多様な観点から学ぶことができるよう展開されている。</p> <p>○言語活動については、「道案内」「電話」「買い物」など特有の表現が使用される場面を扱うコーナーがOur Project、Power-Up、本文などと多岐にわたっていることで、読解やパフォーマンス活動など様々な角度から学ぶことができるよう配慮されている。</p> <p>○言語材料については、マンガ形式で掲示されているため、新出表現がどのような目的・場面・状況で使われるのか視覚的に理解できるよう配慮されている。</p> <p>○補足的な内容については、Coffee Breakというパートで本文題材に関連した話題や英語特有の表現が取り上げられており、生徒の好奇心に応える配慮が十分なされている。</p> <p>○内容の構成については、3～4のProgramごとにOur Projectをはさみ、Scenes、複数のPart、Review &amp; Retell、Actionと単元を通して4技能5領域の言語活動をバランスよく配置し、生徒が主体的に学習に取り組むことができるような構成になっている。</p> <p>○内容の配列については 第1 学年では小学校の既習材料、be 動詞、一般動詞、助動詞 can、疑問詞、代名詞、There is/are の文、現在進行形、過去形、過去進行形、で排列。第2 学年では未来表現、動名詞、接続詞、不定詞、助動詞、比較、受動態で排列されている。第3 学年では3 学年では現在完了、SVC 文型、分詞の後置修飾、関係代名詞、仮定法過去で排列されている。</p>		

<p>使用上の配慮等</p>	<p>○札幌ラーメンを取り上げたり、絶滅しそうな動物の例として北海道のシマフクロウやタンチョウヅルを取り上げたりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がある。</p> <p>○視認性や書きやすさに配慮された書体を1年生のほぼ全体と、2年生の最初の方で使用している。また、夏休み前までの小中接続期では、回答欄に4線を使用しており、文字指導に配慮している。</p> <p>○紙面や学習者用デジタル教科書の両方に付した二次元コードから本文と語句欄の音声(スピード変更、スラッシュ読み、カラオケ機能、マスク機能付き)や文法解説動画などを視聴することができる。</p> <p>○各学年の学習到達目標をCan-Doリストで明示し、それらが達成できるよう内容が編成されている。また、それぞれのUnitでそれが達成できたかどうか確認できるようになっている。</p>	<p>○本文の下に内容把握のための英語の問が設けられているため、英問英答の活動ができ、これにより教室で英語でのやり取りが活発に行われ、生徒が自発的に発話できる機会が増えるよう配慮されている。</p> <p>○各単元のScenesと本文、各所で出てくる新出表現については、紙面右上に付したQRコードから英語音声聞けるため、自宅での学習にも活用できる。QRコードからは音声資料だけでなく、アニメや実写の動画にもアクセスでき、生徒の自学自習を一層促すものになっている。</p> <p>○活字は太めで大きく、行間も十分に取られ、視認性に優れている。欧文は、1年前半まで小学校と同じ手書き書体、1年後半では書き写しやすい活字書体、2・3年生では一般的な書体を採用し、無理なく文字学習に取り組めるよう工夫されている。</p>
<p>その他</p>	<p>○デジタル教科書について 本文のページを3段階まで拡大できるほか、ショーツムービーでは音声の再生速度を8段階まで切り替えて聞くこともできる。単語のマスク機能もあることで、意味を隠して見ることで暗記学習にも活用できる。ルビや日本語読み上げにも対応しており、多様なバックグラウンドを持つ生徒にも配慮がなされている。また、デジタルマップ機能というものがあり、世界50カ国の名物・名所について英語と日本語で学ぶことができ、それぞれについてT&amp;Fクイズに挑戦して外国に関する知識・関心を深められるなど、生徒の学習意欲を高めるしかけも用意されている。</p>	<p>○指導者用デジタル教科書(教材)では文字や背景色の白黒反転、本文読み上げ機能に加え、教科書本文やPower-Upのアニメーション動画や、短い資料映像など、オリジナルコンテンツが多数搭載されている。また、目的に応じて、音声の再生方法や英文の表示方法を細かく選択でき、クラスの実態に応じた指導に柔軟に対応することができる。</p>